

テレ・イマーシブ・カンファレンス・システムに関する研究（株式会社ケイ・ジー・ティー）平成16年度採択評価結果

| 整理 番号 | 評価点 | | 総合所見 |
|---------------|----------|----|---|
| 16 - 06 | 技術 評価 | 33 | <p>遠隔地・高臨場感コミュニケーションを実現するための技術として、ネットワークを介した没入型分散 VR 環境のためのオープンソフトウェアを開発するという内容の技術的先端性は高く評価される。しかし、本提案で対象とされるアプリケーションは、大型の VR 表示装置での利用によってその真価が発揮される性格となっており、波及性の点で弱さがある。ただし、提案者らによる既開発のソフトウェアについては、世界的に高い水準にあり、これを継承するという意味では、本課題の研究開発水準のレベルは妥当であると判断される。一方、ソフトウェアの普及という観点で考えた場合、国内のみならず、国際的なデファクトとなる可能性も考えられる。</p> <p>事業化について、委託研究にて基盤ライブラリの開発、コンソーシアムと連携したプロトタイプアプリケーションの開発を実施し、終了後ライブラリ販売、アプリケーション開発受託、パッケージ商品販売に移行する計画は、概ね妥当である。市場規模は本アプリケーションの対象となる業種の一定規模資本の民間企業、大学、研究所数の積み上げから算出しており、概ね妥当な試算結果と考える。本技術の成果が事業に結びつくかどうかは、オープン性、標準性が極めて重要になる。会議システムの市場規模は特に過大な数値ではないが、標準化のポジションをとることが前提と考えられる。</p> |
| 事業 化 評価 | 33 | | |